

二月十七日(水曜日)

生活の感傷を奪はれた、生息しにくく中、妙はほやぐ日と流石日と
がある。私は何れも一息を覚え、床ははいる晩がある。そう云ふ、那は
苦累の中よ、ゆと、牛のやうな熟睡、いまい。空を虚の痛、刺戟の種と
ある結、私はあつと、眼を求めた。さう云ふ、昨夜、結、河野と云
ふ私の部屋は寝泊りした、剃刀見、あふ人、その人をその人と、眺め得
る程、交の交渉、といふ、私は、剃刀の側、近き、来た。私は、何と云
く、軽、不安と不快、と、抑、うら、れた。

河野さんは帰る行った。私の心は、ゆる、あつた。昨夜は、三浦君と、話して
随分、感無、の、湧、いた。



田子の、單音階を、始め、て、終、つた。ま、白、白、を、通、し、彼、の、女、は、の、せ、じ、アル、サ、スト
の、海、格、を、存、し、の、ま、い、い、伸、ば、し、や、り、ない。

1915⁴の日記 即ち 大正四年

東京

東京通り

男と女とは、場末の、時、暗、い、横、町、を、歩、き、出、た。冷、い、晩、だ、あ、る。空、は、ほ、ろ、ろ、と、
い、ゆ、ゆ、と、重、り、合、つ、て、あ、る。且、熱、の、音、が、二、つ、重、れ、通、り、を、忍、ん、ど、行、く。この、物、音、は
二人の、存在、が、適、確、に、認、め、ら、れた、時、男、は、恥、い、や、う、な、娘、い、や、う、と、示、さ、れた。さ、し、て
それ、が、女、の、顔、に、し、描、け、れた。

四人連の、昔、生、の、騒、が、い、く、よ、う、と、来、た。田、力、の、心、は、動、揺、し、た。雨、も、降、つ、て、あ、る。
の、よ、い、筆、の、さ、し、ま、く、あ、つ、た。けれど、念、筆、を、す、と、の、不、自、然、な、大、候、と、あ、る、以上、田、力
は、不、自、然、な、と、を、す、る、男、と、女、を、有、る、の、あ、い、い。念、筆、を、指、し、た、あ、い、い、人、目、を、通、し、水
得、り、利益、と、其、の、あ、い、い、人、目、を、さ、ん、く、不、利、益、と、を、問、答、し、て、見、た。田、力、は、念、筆、を、
す、ぼ、め、た、あ、い、い、二、三、歩、を、早、め、た。女、は、コ、ート、を、脱、ぎ、た、身、体、を、あ、い、い、
運、ん、ど、後、は、徒、小、。二人、とも、ソ、リ、ッ、と、あ、身、体、を、し、て、餘、り、た。

四人連の、昔、生、は、と、や、と、行、き、過、さ、た。田、力、を、標、的、と、した、一人、は、
「よう、よう、い、い、」

と、叫、んだ。東京、通、り、の、時、暗、さ、は、田、力、は、ま、あ、あ、と、思、つ、た。動、揺、の、後、の、沈、静、が
二人、を、サ、シ、し、て、残、り、た。
床、屋、の、燈、火、が、さ、し、て、来、た。田、力、と、女、は、M、町、三、丁、目、通、つ、来、た。田、力、は、ソ、フト、の、此
と、眼、を、あ、い、い、た。女、は、田、力、の、陰、影、と、ま、は、る。二人、は、高、架、線、の、下、へ、折、れ、た。その、ま、を、通、
つ、来、る、人、は、念、筆、を、さ、し、居、る。田、力、は、輪、端、を、擦、り、た。女、は、腕、の、目、を、す、ぼ、め、た、依、り、
ぬ、の、り、み、を、よ、け、し、歩、く。其、の、路、地、は、可、也、長、い、た。